

インド国際文化研修レポート

1) プログラム全体について

この研修のカリキュラムはどれも将来に役立つ事の出来るものであったなと感じます。行く前は何も予習できずじまいでなかなか不安でしたが、向こうの先生やボランティアの方たちは考えていたよりも親切ですごくフレンドリーでした。その中でもヒンディー語やヨーガは何にも知らない状態から始まって正直、やっつけののかなと思いました。でもすごく楽しく学びました。また、英語では本当に聞き取るのが苦しいぐらい思っていたより大変なものでした。後々よく考えてみたら聞き取れなかった所が数個あったので後悔しています。それにインド人と友達になれたものの相手の英語がなかなか聞き取れず、きちんと会話できていたのか分かりません。しかし何となく微笑んでいる相手に自分から笑顔を作れば何となく気持ちが伝わるということがこの研修で改めて実感しました。また、インドという国の良いところと悪いところを見ることができたのですごくいい経験ができました。

2) ヨーガのクラス

ヨーガという言葉と日本で呼ばれている「ヨガ」はおんなじ言葉なのかなと思い、実際調べてみると同じ意味でやっぱりそうなんだと確信しました。おそらく「ヨーガ」は *yoga* とも書くので「ヨガ」と日本では呼ばれているのだと思います。私は体が硬く、運動もできてないので最初からこのクラスは苦痛でしかありませんでした。けれども、毎日同じポーズを続けて言っていると自然と様になってきて、ヨーガをやる度にすごく健康になってきている気がして、初日に出た痛いという気持ちが自然とすごく気持ちいいなというプラスの気持ちに変わっていき、まだまだ体は硬いが個人的にすごく楽しめる物へと変化していきました。教えてもらったヨーガも何度か見たこと聞いたことのあるポーズがちょっとだけ出てきたのですごく親近感が湧きました。また、個人的な意見ですが、私はヨーガはダイエットになると勝手に思っていたのですが、逆に消化が良くなって何も減りませんでした(笑)

3) ヒンディー語のクラス

この授業は初回から不安でいっぱいでした。なぜかという、ヒンディー語は英語と発音も違いますし、文字も暗号みたいでなかなかうまく書けなかったからです。会話の授業でも雰囲気は何となく発音をしてしまっていました。インド人の学生にも何度か発音を教えたりしてもらったのですが、自分の発音や文字に自信がなく凄くへこんだ1日目でした。けれどもこの授業もヨーガと同じで何度か会話や文字の書き方・発音を復習として何度もしてもらい、最終日に近づくにつれて少しでも話せるようになりました。文字も形がまだ

まだですが、書き方が慣れていました。また、この研修期間ではまだ簡単なヒンディー語会話と文字と発音しか習うことができなかったのも、日本でももっと個人的にヒンディー語を学べる機会が持てれば良いなと思っています。

4) 英語のクラス

今回の研修では英語を使ったゲームと英語で英文法を学ぶという経験をしました。このことはなかなかインド人の英語を聞き取れていなかった時点で自分にとっては不可能な授業に近いなと感じていました。恐らく他の日本人の学生にとってもそのように捉えただろうなと考えます。授業の内容に関して英語を使ったゲームの方は小・中・高の時にやってきたようなものばかりですごく楽しくためになるクラスでした。先生も何を言っているか恥ずかしながら半分以上分かりませんでした。二人ともすごく優しく丁寧に教えてくださいました。英文法の授業も雰囲気では何の話をしているかは分かったのですが、やっぱり英語の発音が聞き取りづらくて困ってました。でも馴染みの深いものばかりを話してくださったので授業にすごく乗り込めることができました。これらのクラスで一番後悔しているのが、自分の英語能力です。恐らくもっと真剣に英語を勉強していたらもっと感じ方が違っていたと思います。

5) インド経済の授業について

日本・アメリカ・インドの経済を並べて比較させながら講義を進めてくださったので、内容に納得がしやすく、考えることにも困ることがあまりなかったのですごく楽しんで受けることができました。また、向こうの教授さんは少しおかしな所もありましたが、私達がより講義内容を理解できるようにとパワーポイントに日本語を載せてくれました。私達はヒンディー語・英語すらまともに話せないのに・・・インド人の良い性格が見れて良かったです。また、講義の内容の一部にインドはこれからどんどん成長していく国なんだということを知り、今までインドに関する事は全然興味がなかったのに、この講義を聞いただけでもっとインドに関する事を京産でも学びたいという気持ちになりました。日本やアメリカ人の特徴についても簡単に話してくださり、何度か聞く内容だったので理解度が強かったです。ちなみに私はアメリカ人の考え方がやはり好きです。

6) Cultural Exchange Programs

私はどちらかというと、世界の伝統的文化・芸術に興味があるのでこの時間はすごく自分にとってためになる時間でした。インドの踊りは東西南北どの地域のものもそれぞれに個性があってすごく魅力を感じました。音楽も伝統的な楽器で奏でる音楽はどれも珍しく言葉はよく分かりませんが、何となく何かを感じました。歌も現代と昔では少し違いますが、どこか名残がまだ残っているなという印象を受けました。私達が披露した「恋するフォーチュンクッキー」や「ソーラン節」はすごく現代風で昔の演歌や短歌などの要素は隠

れていないかと改めて感じました。ソーラン節は、祭り風な音楽なので少しだけ伝統的ですが、フォーチュンッキーはその陰すら私自身、見えないのでこういう所で少しだけですが、インド人と日本人の思想の違いが少し分かったような気がしました。また亀田さんが弾いていたボーカロイドもそんな感じでした。

7) 遠足 (Nashik とムンバイ)

遠足一日目ではヒンドゥー教に関係している洞窟を訪れ、いくつかの石像を見ました。その中でも一番衝撃的だったのが破壊された石像でした。これらは信仰による問題で起こったものであると聞いたが、日本が以前やっていたこととほとんど同じだなと感じました。それは廃仏毀釈です。考え方はまた違っていますが、私にはほとんど同じことだなと感じます。また、ヒンドゥー教の色々なお寺を巡るために Panchavati という地域も訪れました。お寺の中でも女は基本的に入れないという厳しい規則を持つお寺があるのは凄く衝撃的でした。また、2日目はイギリスの王・妃を迎え入れるために作られたインドの門、ガンディーが住んでいた家、ネルーセンターに行きました。門はすごく大きくて迫力があり、かなり頑張って作ったのだなという感じがしました。またガンディーをテーマにした博物館にある資料展示はもちろん、人形による展示もなされていたので書いている内容でなかなか想像できない分を補ってくれる素晴らしい展示のやり方でした。彼の話は英語や社会の授業で何度か触れたことがあったのでより親しみがわき、より興味を持つことができました。またネルーセンターでは古代から現代までの展示がなされており、自分自身、またインドについてもっと深く知っていきなと改めて思うそんな機会になりました。またボリウッズの歴史博物館にも行ったりしてすごく充実した素晴らしい旅でした。

8) ボランティアについて

私達とそんなに歳も変わらないはずなのに、私達の方がすごく年下っぽいと思うぐらい、向こうの人は頭が良く、覚えるのも早く学習レベルの違いにすごく圧倒されました。多分それは私達にはまだまだ学ぶ喜び、楽しさが感じられていないからだと私は思います。私を感じるのにはインド人の人達は時々ふざけあっているけど、日本語を知りたい、楽しみたいという気持ちが彼らと一緒に過ごしていく中で感じ取ることができました。また、ボランティアの方々は交流に慣れているだけかもしれないが、すごくフレンドリーでいけないこともきちんと注意して払いのけてくれるし、英語やヒンディー語のクラスでも多くのサポートをしてくれました。最初、学生よりボランティアが多いなんてどうなんだろうとずっと考えていましたが、やはりそれぐらいの人数がいないと私達はどうなっていたか分かりません。とにかくいろんな事を知り尽くしている彼らはすごく頼りになり、友達になれてすごく嬉しかったです。

9) 今後の文化交流について

私自身、担当は変わったとしてもこの研修は続けていってほしいなと感じます。この研修内容は人によってはすごく厳しくて途中で嫌になるものかもしれません。しかしそれに耐えてこのような経験をすることによってお金はかかりますが、その分だけ良いものを得て帰って、これから私はこの交流の機会は続けていくべきだと思います。また、私自身として今後インドという国とはしばらく距離を置くことにしますが、次観光・留学とは別の形、ボランティアとして貧困に悩める人達を少しでも救えたらなと思っています。これは文化交流ではありませんが、いろんな意味で交流できているものだと私は感じます。もし文化交流しなければならなくなった時、私は日本の遊びをインドに住む貧困に悩む子供達に教えてあげたいなと思います。なかなか実現は難しいことですが、同じ考えを持つ人にうまく出会って頑張っていきたいです。

10) インドと日本の学生

ボランティアの人や学生を全体的に見て、まず私達と将来の夢の見かたが違うなと思いました。私たち日本の学生は小さな頃は先生や小説家などとインドの人と変わらない夢を持っていましたが、大学生になるとどこかの会社に就職できればいいという考えに変わってきています。それは恐らく日本全体が学習に対する好奇心を持っていないからだと思います。それに比べて向こうの学生は学ぶ・覚えることに楽しさを感じています。私達もこのような気持ちを持てば、将来の夢が変わり、学力もアップさせることができるようになるかもしれません。